61年春の叙勲・褒章

―統計調査員さん7人が晴れの受章―

長年統計調査員として国勢調査をはじめ各種の統計調査に従事され，統計調査の重要性と必要性を十分認識して，誠心誠意よりよい統計づくりのために貢献された下記の方々に対して4月29日付けをもって叙勲・褒章が贈られました。

今回受章された那珂湊市の大内茂氏外6名の方々は，いずれも国勢調査に9回ないし10回も従事されるとともに各種の統計調査に数多く従事されました。日立市の鴨志田平治氏は，戦前の昭和15年の第5回国勢調査から昨年の第14回国勢調査まで連続して10回も国勢調査に尽力されました。戦中・戦後の混乱期を経て近年のプライバシー意識の高まりなど調査をめぐる環境の変化等，それぞれの時代にそれぞれの問題点もあってさぞご苦労があり，今回の受章に際しても感がい深いものがおありになることでしょう。こうした長い間の地味な調査員活動に対して贈られた今回の受章は喜びもひとしおのことと思われます。

近年，統計の需要はますます高まっているなかで調査環境等はますます厳しさを増してきておりますが，受章を機に今後とも健康に十分留意されて，ますますご活躍下さいますよう期待いたします。

また，今回勲六等瑞宝章の栄に輝いた大内氏は次のように受章の喜びを寄せられました。

（統計課・統計指導グループ）

勲六等瑞宝章

那珂湊市統計調査員
大内　茂 氏
（70 歳）

藍綬褒章

八郷町統計調査員
長谷川　要 氏
（73 歳）

藍綬褒章

瓜連町統計調査員
先崎茂平 氏
（73 歳）

藍綬褒章

岩間町統計調査員
町田武光 氏
（73 歳）

藍綬褒章

玉里村統計調査員
狩谷清吉 氏
（72 歳）

藍綬褒章

日立市統計調査員
鴨志田平治 氏
（71 歳）

藍綬褒章

結城市統計調査員
岩岡武雄 氏
（71 歳）

『受章のよろこび』

那珂湊市統計調査員
大内　茂

私こと，この度の叙勲に際しはからずも勲六等瑞宝章拝受の栄に浴し，身に余る光栄と感激いたしております。

去る5月21日には，小雨けむるなか，総務庁合同庁舎での伝達式に参列いたしました。緊張と感激のうちに江崎総務庁長官より勲記と勲章を授与されました。伝達式の後，記念撮影，祝賀会を終え，バスにて宮中に向かいました。

坂下門より参内し，新宮殿南だまり玄関前に着き春秋の間に案内されました。初めて見る宮殿の立派さには目にふれるものすべてがすばらしく唯々驚嘆するばかりでした。

拝謁までの間，建物内外の説明をうけお待ちしていましたが，いよいよ天皇陛下がお出ましになられました時は，えも言われぬ荘厳さに身の引き締まる思いでした。また，陛下からはねぎらいのお言葉を賜り感激の極みでした。謁見がすんでから雨のため玄関で記念撮影，予定の行事を終わりました。このよろこびは終生忘れることのできないものであり，記念すべき最良の一日となりました。

不肖私が，昭和22年統計調査員として委嘱を受けてより，はや40年の星霜を経ました。その間調査方法などにも変遷がみられ，数年前よりはコンピュータ導入により調査方法も複雑になってきたようです。

しかし，我々調査員の活動の基本となるものは足でかせぐところの踏査であり，将来においても何ら変わるところのないものと考えております。そこには当然会話が介在し，人間としての感情も働くわけであります。この仕事が難しくもあり楽しみでもある所以です。そして，地域の皆様と調査員とが「また来たよ」「やぁ，ご苦労さん」と，気軽に応じ合える信頼関係にあることが何にもまして重要ではないかと思います。はじめて調査対象となったお宅に伺った時などは，いぶかしげな応答もありますがそれは当然であり，調査の内容目的をわかりやすく正しく説明すれば自ずと解消することですので何ら気になるものではありません。信頼というものは調査の種類，内容にかかわらず，プライバシーの厳守がなければ得られるものではないと常々考えております。

私ごとき市井の凡夫がさしたる困難もなくここまで勤めることができたのも，調査のたび快諾して下さる地域の皆様のご支援とご協力，そして関係各位の温かいご指導ご鞭撻のお陰と感謝いたしております。

しかし，この度の冥加に余る受章の吉報は夢にも想わず，ただただ汗顔の至りでございます。しかしながら，過分の恩沢と恐縮するもののやはり本音を申せば大きな喜びでございます。勿論，我々調査員は栄達や報酬を期待すべきではありませんが，この上はさらに多くの優秀なる諸兄諸姉が，地道な調査活動のうえに残された数々の業績が広く世に顕彰され喜びを分かち合えることを切望して止みません。どうか皆様におかれましては健康に留意の上，ますます調査活動に精進されることをお祈り申し上げます。

市制施行にあたって

牛久市総務部
企画財政課長　幸田　晃

昭和61年６月１日，「牛久」の空に新しい息吹の風が舞った。

すなわち，私たちの町は，各方面のご高配と祝福を賜りながら県下で19番目，全国で652番目の市制を施行し，「牛久市」として新たな歩みを始めたのであります。

これまでの町としての歩みを「少年期」にたとえるなら，いよいよこれからは成熟した「青年期」を迎えたわけで，牛久市はいま，実り多き昨日から夢多き明日へ向かって，力強く船出しました。

顧みれば，旧牛久村が町制を施行したのが昭和29年１月，そしてその年の４月に旧岡田村と合併し，次いで翌年の30年２月に旧奥野村を合併して，新生牛久町が誕生したのでありますが，当時は人口わずかに15,000人，しかも農業を主産業の田舎町にすぎませんでした。

しかし，都心から約50km，水と緑の豊かな自然環境，そして首都圏整備法による近郊整備地帯の指定等の好条件があいまって，昭和45年頃から人口増加が相つぎ，昨年10月の国勢調査では，前回に比べて11,762人，29.3%増加の51,926人を数え，町村では広島県廿日市町の52,020人に次いで全国２位の人口規模となるなど，まさに驚異的な発展と都市化が進んだのであります。

往時の風景，風物，風俗を知る人々にとって今の牛久市の様相は，おそらく別世界に近い感慨があるのではないかと，私は思います。

しかもそれは，単に人口が15,000人から53,000人(市制施行時点)にふくれあがった，というだけのものではなく，政治行政，産業経済，生活環境，そして福祉政策や観光など，私たちの実生活を取りまくあらゆるものが，物質的にも精神的にも純農村から近代都市へと大きく変容したのです。

ところで，このような発展，すなわち都市づくりは，決して容易なものではなかったはずです。

牛久市のスタートの日，初代市長となった大野市長は，先人，先輩の徳政を称えながら，今後の街づくりの基本について市民に対し，大要次のような所信を表明しましたので，以下にそれを紹介します。

「私は，こんにち幸いにし

〔牛久市概要〕　人　口…53,072人（6月1日住民基本台帳）
世帯数…14,997　　面　積…59.16km²

国勢調査人口・世帯数の推移

区　分	人口 総数	人口 男	人口 女	女100につき男	対前調査年増加数	世帯数	平均世帯人員	人口増加率
	人	人	人				人	%
昭和30年	15,627	7,800	7,827	99.7	——	2,915	5.36	—
35	16,131	8,012	8,119	98.7	504	3,206	5.03	3.2
40	17,203	8,701	8,502	102.3	1,072	3,771	4.55	6.6
45	19,372	9,782	9,590	102.0	2,169	4,617	4.19	12.6
50	27,674	13,760	13,914	98.9	8,302	7,147	3.87	42.9
55	40,164	20,083	20,081	100.0	12,490	10,697	3.75	45.1
60	51,926	26,094	25,832	101.0	11,762	14,318	3.63	29.3

牛久駅を中心に上空から見た市街地風景

て初代牛久市長の栄に浴したわけでありますが，牛久町長と致しましては3代目でありまして，初代町長川村衛先生の時代に，今日の牛久市の土台が築かれ，第2代町長宮本進先生の時代に，今日の牛久市の骨組みが作られ，そしてその土台と骨組みの上に今日の都市づくりがなされたのであります。

この都市づくりは，時代の要請に応えるものではありますが，長年にわたって多くの先輩が，夢とロマンにあふれ，英知と情熱と連帯を以って，幾多の障害や困難を克服して，かち得たものであることを忘れてはなりません。

今ここに，我が郷土が牛久市として船出するに当たり，これら多くの先輩の，限りないご努力に対しまして心から深く感謝と敬意を表する次第であります。

しかしながら，本当の意味での都市づくりは，むしろこれからであると申せましょう。

人口は今後とも増えつづけることでありましょうし，生活環境をはじめとする都市的機能の整備は，さらに一段と推進しなければなりません。

私たちの実生活が，単に物理的に便利になったと言うだけであってはなりません。

いやおうなく押し寄せる都市化の狭間にあって，水と緑と光にあふれた生活環境を保ち育て，文化の香り高い固性的で芸術性にあふれ，しかも創造的魅力のある，精神的にも豊かな都市づくりを悲願するものでなければならないと思います。その意味で，今日ほど市民相互の絶えざる心のふれあいが，必要かつ重要な時はありません。

私はかねてから「住民対話」を政治姿勢の基本として参りましたが，それを住民の皆さんの立場からみますなら，「住民参加」の行政と言うことになると思うのであります。5万3000人の牛久市民が，新しい市民意識と言うエネルギーを以って，新しい都市づくりに参加する姿の中にこそ，真の輝かしい牛久の未来像が画かれるのではないでしょうか。

5万3000人の牛久市民の皆さん。私達の先輩が営々として形づくり，そしてそれを受け継いだ我らが郷土牛久市を，21世紀と新しい次の世代の牛久市民へ，さらに素晴らしい牛久市として橋渡しする貴い義務を，今日の私達は，背負っていると思うのであります。

私達は，今日の牛久市民としての幸せを享受すると共に，明日の世代の牛久市民のために，自分自身に課せられた使命を果たそうではありませんか。」

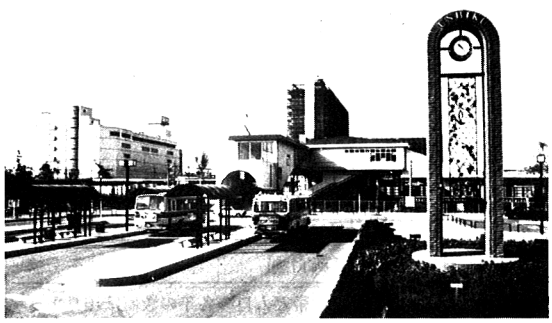
我々職員もまたこの意を体して，それぞれの職務に精励し，牛久市という新しいコミュニティ社会の，少なくとも「一隅を照らす」存在であり続けたい，との思いを新たにしているところであります。

牛久市民の平均年齢は33.3歳（6月1日現在），高齢化が著しく進展している現代社会からみれば，冒頭でも表現しましたように，本市はまさに活気あふれる「青年期」そのものであります。

都市としての形態を整えるのには，まだまだ成さねばならぬ課題も多々ありますが，それだけに未知なるものへの魅力と創造の喜びを，今後の市政推進の中で市民と共に分かちあいたいと念じております。

統計事務に携わる立場でありながら，何んらその面の紹介もできず，誠に忸怩（じくじ）たる思いを禁じ得ません。

斯道業務（しどうぎょうむ）の一層の充実発展のため，関係者ともども今後更に努力精進する所存でありますので悪しからずご容赦ください。



市の玄関口である駅前も既に装いを一新した